



KFR・大阪府立大学大学院工学研究科海洋システム工学分野共催セミナー

自動運航船という近未来を考える

現在、自動車業界は急速に自動運転化に向けた舵を切りつつあり、すでに一部機能の自動化が達成されつつある状況にあります。一方、造船海運業界においても、海上交通量の将来的な増加と、高齢化等による船員需給のひっ迫などが直接的トリガーとなり、世界各国で自動運航船の開発機運が高まっています。我が国日本も、2025年を1つの目標として自動運航船の実現に向けた取り組みが各機関で行われています。自動運航船は、デジタルライゼーションなどと並び造船海運業界で最も注目されているトピックの1つです。その実現には、技術や規制の複合的課題を克服する必要があります。制御工学や人工知能など、もはや流体力学のみではカバーできない横断的な知識の集約が求められることに疑いの余地はありません。今回のKFR例会では、自動運航船という近未来を、2つのトピックの講演を基に、ディスカッションも交えて皆さんと考えてみたいと思います。ご関心をお持ちの多数の方々のご参加をお待ちしております。

KFR 会長 梅田 直哉

— 記 —

第344回 KFR セミナー

- 日時：2019年3月15日（金）1400～1650
- 会場：大阪府立大学 I-siteなんば 講義室C1
大阪府大阪市浪速区敷津東2丁目1-41
<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/>
- 参加費：無料、要事前登録

・ AIによる自動操船について（橋本 博公氏：神戸大学海洋底探査センター）

Deep Q-Learningにもとづく自動操船用AIの開発技術に関して、衝突回避の問題を中心に解説し、現状の課題や今後の見通しについて紹介します。

・ 自動着棧技術の課題と展望（牧 敦生氏：大阪大学大学院工学研究科）

自動着棧技術について、過去の研究史から最近の話題まで、制御工学の基礎的課題も含めて紹介するとともに、将来的展望についても解説します。

・ フリーディスカッション

上記2つの講演などをベースに、自動運航船という近未来を、NAVIKAの並川 俊一郎氏、ジャパン マリンユナイテッド株式会社の正司 公一氏などの方々を交え、技術と規制の両側面からディスカッションを行います。

ご参加のお申し込みは、3月8日（金）までに下記連絡先までお願い致します。
セミナー終了後、懇親会（1730開始、宴会天国味園、一般＝5,000円、学生＝3,000円）も予定しています。こちらにもぜひご参加ください。お手数ですが、懇親会への参加希望についても併せてご連絡をお願い致します。なお、懇親会欠席のご連絡は前日までにお願いします。

ご参加申し込み連絡先：関西船舶海洋流体力学研究会（KFR）事務局
牧 敦生（大阪大学大学院工学研究科）
TEL：06-6879-7579 FAX：06-6879-7594
E-mail：maki@naoe.eng.osaka-u.ac.jp

会場までのアクセス

(大阪府立大学 I-site なんば HP より転載)
<http://www.osakafu-u.ac.jp/isitenanba/about/map/>



懇親会場（味園）までのアクセス（KFR 幹事が引率いたします）

(味園 HP より転載)
<https://universe-misono.co.jp/>



●I-siteなんばまでのアクセス

- 南海電鉄「なんば駅（中央出口）」下車、南海線東側の道を南へ約800m、徒歩約12分
- 地下鉄御堂筋線「なんば駅（5号出口）」下車、南へ約1,000m、徒歩約15分
- 地下鉄御堂筋線・四つ橋線「大国町駅（1番出口）」下車、東へ約450m、徒歩約7分
- 地下鉄堺筋線「恵美須町駅（1-B出口）」下車、西へ約450m、徒歩約7分
- 南海電鉄高野線「今宮戎駅」下車、北へ420m、徒歩約6分

以上